

日本学生支援機構
障害学生支援専門テーマ別セミナー【地域連携】
平成30年11月9日

合理的配慮と地域ネットワークの構築



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

学生総合支援センター 障害学生支援ルーム
高等教育アクセシビリティプラットフォーム

特定准教授 船越高樹

FUNAKOSHI Koju

社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業

平成29年度予算額 45,000千円
(22,500千円×2件(予定))

背景

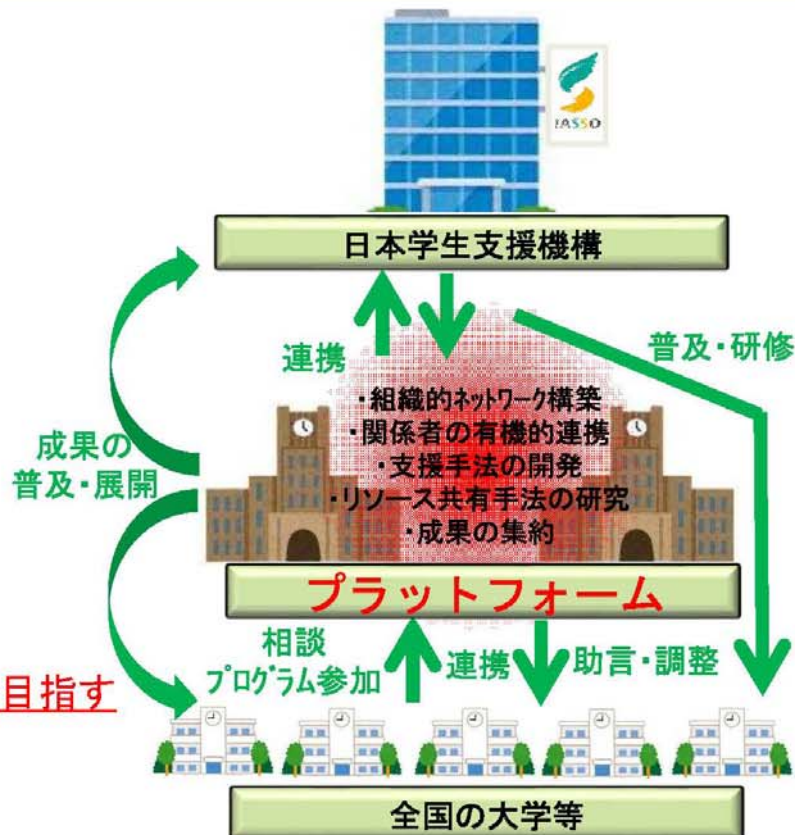
- **障害のある学生数の急増**
平成18年から平成28年の間で5倍以上(約5,000人→27,000人)に増加。
- **「障害者差別解消法」の施行(平成28年4月)**
全ての大学等において障害者への不当な差別的取扱いの禁止・合理的配慮の提供が義務ないし努力義務とされた。
- **「ニッポン一億総活躍プラン」・教育再生実行会議「第九次提言」等**
閣議決定された政府提言等において障害のある学生支援の充実が求められている。
- **障害のある学生の修学支援に関する検討会(平成28年度)**
オールジャパンの取組みを促進するため、本施策が提案された。

概要

- 将来にわたり障害のある学生への支援を支えていく組織的アプローチの土台としての大学等の連携プラットフォームを形成する取組を支援。
- **<プラットフォームでの取組内容>**
 - ① 大学等、福祉や労働行政機関、障害当事者団体、企業等との組織的なネットワークの構築する。
 - ② 障害のある学生への支援における課題の解決に向けて、職員や研究者その他の関係者の有機的連携を先導する。
 - ③ 障害のある学生への支援の手法の開発・調査や、人材・設備・教材などの支援リソースの共有手法の研究など、これまでの支援方法を発展させる取組を行う。
 - ④ 得られた知見等の成果を集約し、全国の大学等に普及・展開を行う。

オールジャパンの取組を促進し、共通課題を克服を目指す

- ・同等条件で学べる教育環境の充実
- ・初中段階から大学等への移行(進学)を促進
- ・大学等から就労への移行(就職)を促進
- ・理解促進、情報公開、研修の充実





AHEAD JAPAN / 文部科学省 / 日本学生支援機構 等

京都大学
「高等教育
アクセシビリティプラットフォーム」
Higher Education
Accessibility Platform

東京大学
「障害と高等教育に関する
プラットフォーム形成事業」
Platform of
Higher Education and Disability

役割分担をしつつ両大学が全国をカバー

- 支援体制整備に困難さがある
高等教育機関の
- 体制整備・強化
 - 連携・ネットワーク促進
 - 実践面の強化

- 日本における障害学生支援の
- 先端的取組みの惹起
 - スタンドアード作り
 - 障害のある学生の
エンパワメント

京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム
高等教育アクセシビリティプラットフォーム
HEAP ~ Higher Education Accessibility Platform ~

連携校：広島大学

▶▶ HEAPの事業概要

● 相談事業

「障害学生支援の体制整備に関する相談窓口の設置」

- ・ 障害学生支援体制構築のコンサルティング
- ・ 研修講師派遣およびコーディネーター等の研修支援
- ・ 調査研究への協力

● ネットワーク形成事業

「ニーズに応じたネットワーク形成支援」

- ・ 地域別ネットワーク形成
- ・ 設置者・校種等カテゴリーを意識したネットワーク形成
- ・ 機器の貸し出し等、リソースシェア支援

● 連携促進事業

「各種連携体制の機能強化、形成促進支援」

- ・ 高大連携強化…高校への講師派遣等
- ・ 社会（就労）移行支援モデル作り等
- ・ 各種・地域社会資源との連携強化モデル作り等



▲▲連携・協力▼▼



東京大学
「障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業」
Platform of Higher Education and Disability
連携校：筑波大学・富山大学

文部科学省「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」
日本全国の高等教育機関を対象に、障害学生支援の体制整備状況に生じている温度差の是正に取り組んでいます。

▶▶ HEAPの運営体制

《事務局》京都大学学生総合支援センター内

チーフコーディネーター 船越高樹

コーディネーター 宮谷拓史

ディレクター 村田 淳

(障害学生支援ルーム チーフコーディネーター)

事業責任者 杉原保史

(学生総合支援センター長)

《協力校・協力機関》

本事業および研究実施に主体的な協力を希望する学校・機関を全国から随時募集しています。

【協力校】

大学、大学院、短大、高等専門学校、専門学校等の「高等教育機関」

【協力機関】

地方自治体、社会福祉法人、NPO法人、企業等「障害者支援に関連する取り組みをしている機関」

《アドバイザーボード》

本事業の企画・運営をより専門的に効果的に行うため、アドバイザーボードを設置しています。構成員は教員、事務職員および専門職で、設置校種を問わず全国で先駆的な実践を積み重ねてきた、経験豊かな実務者（7名）を選出しています。

《協力機関》 全国高等教育障害学生支援協議会 AHEAD JAPAN / 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター / 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク PEPNet-Japan
教育の工夫「サリ」デザイン推進ネットワーク UE-Net / 企業アクセシビリティ・コンソーシアム ACE / 株式会社インカレッジ en+courage etc.

《関連機関》 文部科学省 MEXT / 日本学生支援機構 JASSO / 関西障害学生支援担当者懇談会 KSSK / 東海地区障害学生支援フォーラム etc.

《協力校》 HEAP Web サイトに掲載

TEL : 075-753-5707 FAX : 075-753-5722 受付時間：平日 10:00 ~ 16:00

ADDRESS : 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

メールアドレス：d-support-pfm@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Web サイト：
<https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/platform/>
「京大 HEAP」で検索可能です。



障害学生支援に関する最新情報をお届けします！ 障害学生支援プラットフォームメーリングリストに登録しませんか？



- 両大学プラットフォーム形成事業が展開するイベント、ウェビナー等の開催情報
- 障害学生支援関連イベント、最新情報

東大・京大からお届けします！



←こちらのQRコードを読み込み、
Webフォームからご登録ください。
(googleフォーム使用) <http://urx.red/MMze>

※ご登録いただいた情報はPHED/HEAPのメーリングリスト関連メーリングリスト登録以外には使用しません。

文部科学省「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」



「高等教育アクセシビリティプラットフォーム」
Higher Education Accessibility Platform

連携校：広島大学



京都大学 学生総合支援センター
メールアドレス：d-support-pfm@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
Webサイト：https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/platform/
TEL：075-753-5707 FAX：075-753-5722
担当) 村田淳、船越高樹、宮谷祐史



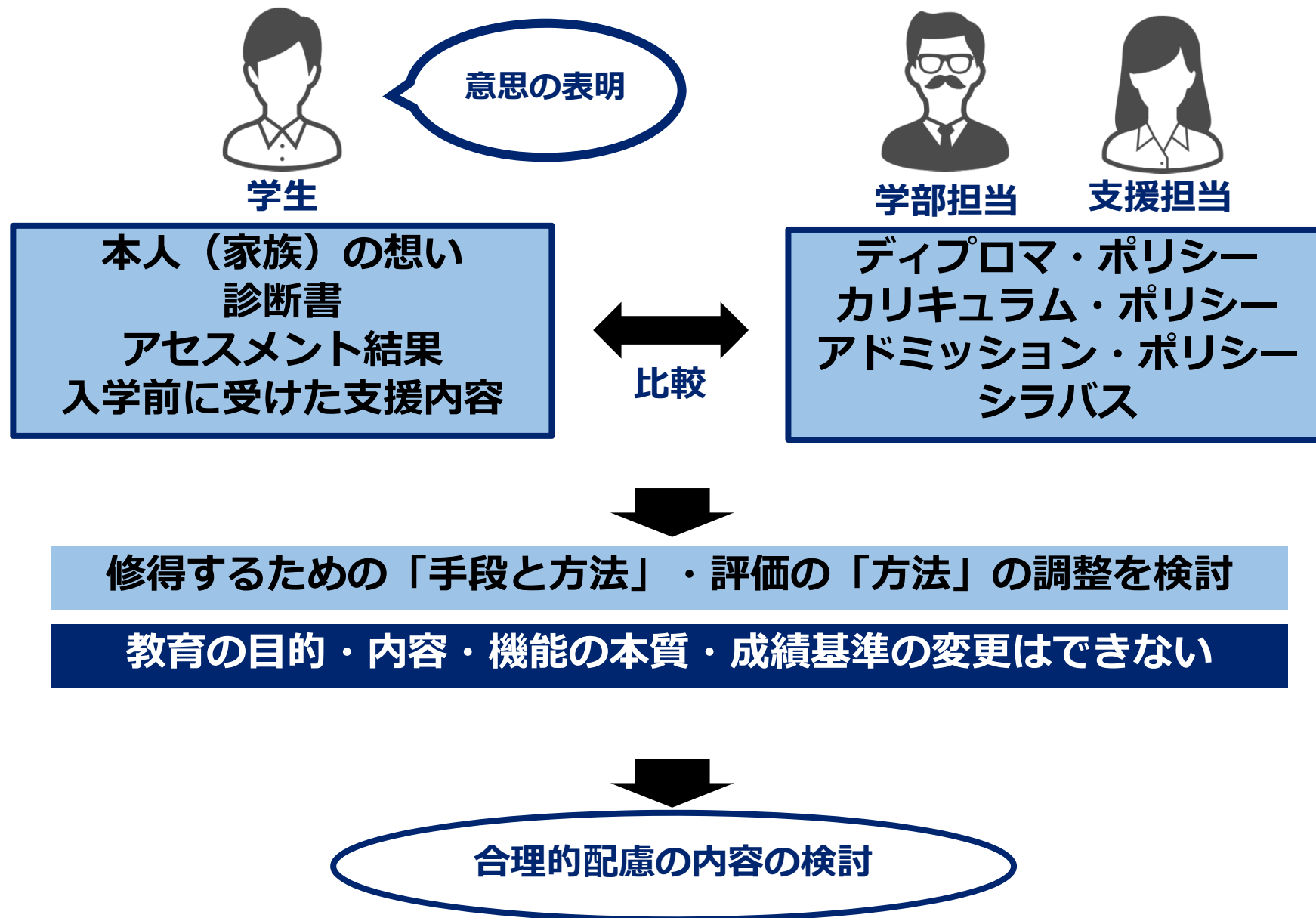
「障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業」
Platform of Higher Education and Disability

連携校：筑波大学・富山大学

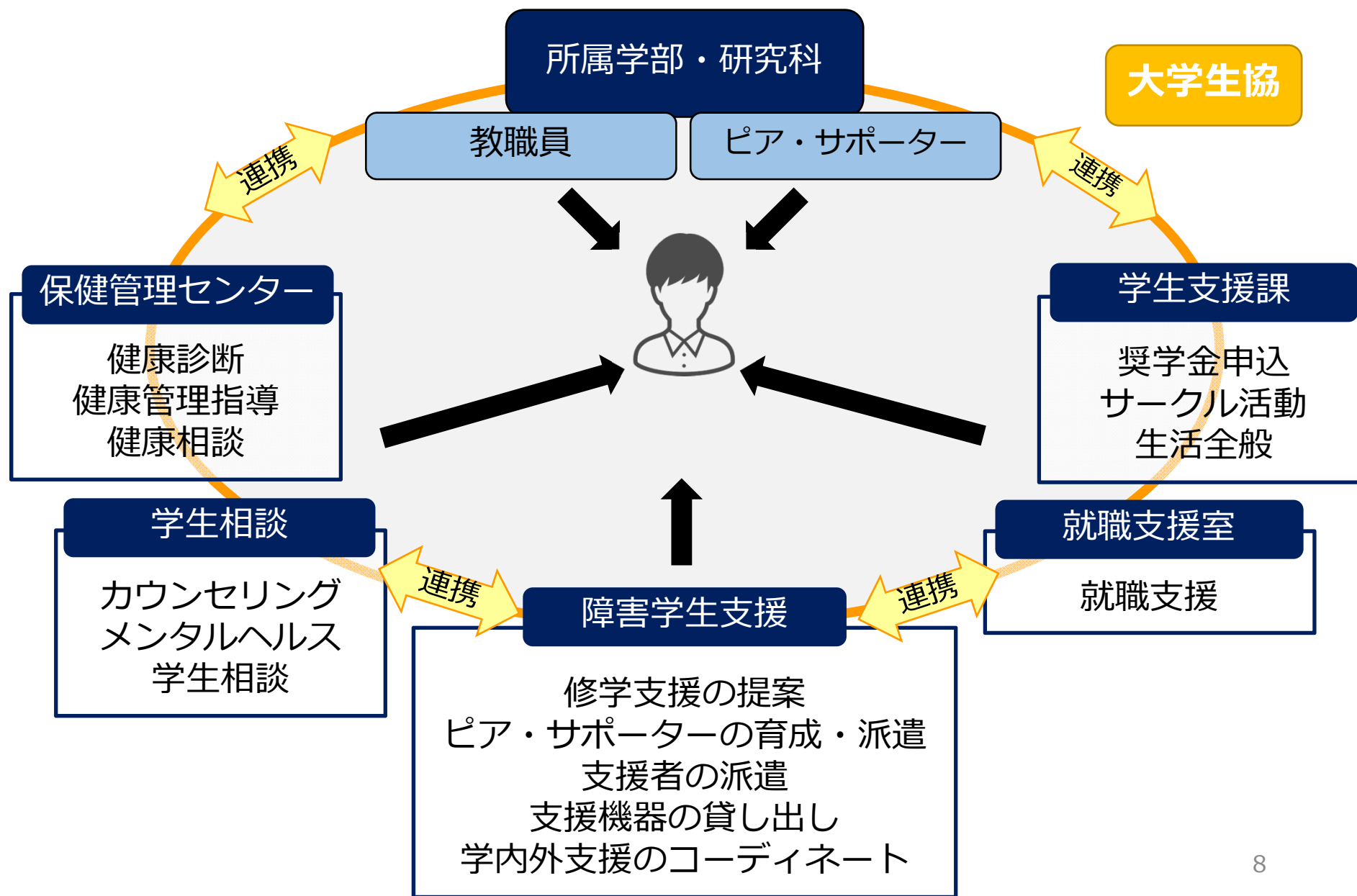


東京大学 先端科学技術研究センター
メールアドレス：phed-secretary@at.rcast.u-tokyo.ac.jp
Webサイト：https://phed.jp Twitter: @PHED_U_Tokyo
TEL・FAX：03-5452-5443
担当) 近藤武夫、高橋桐子、森脇愛子

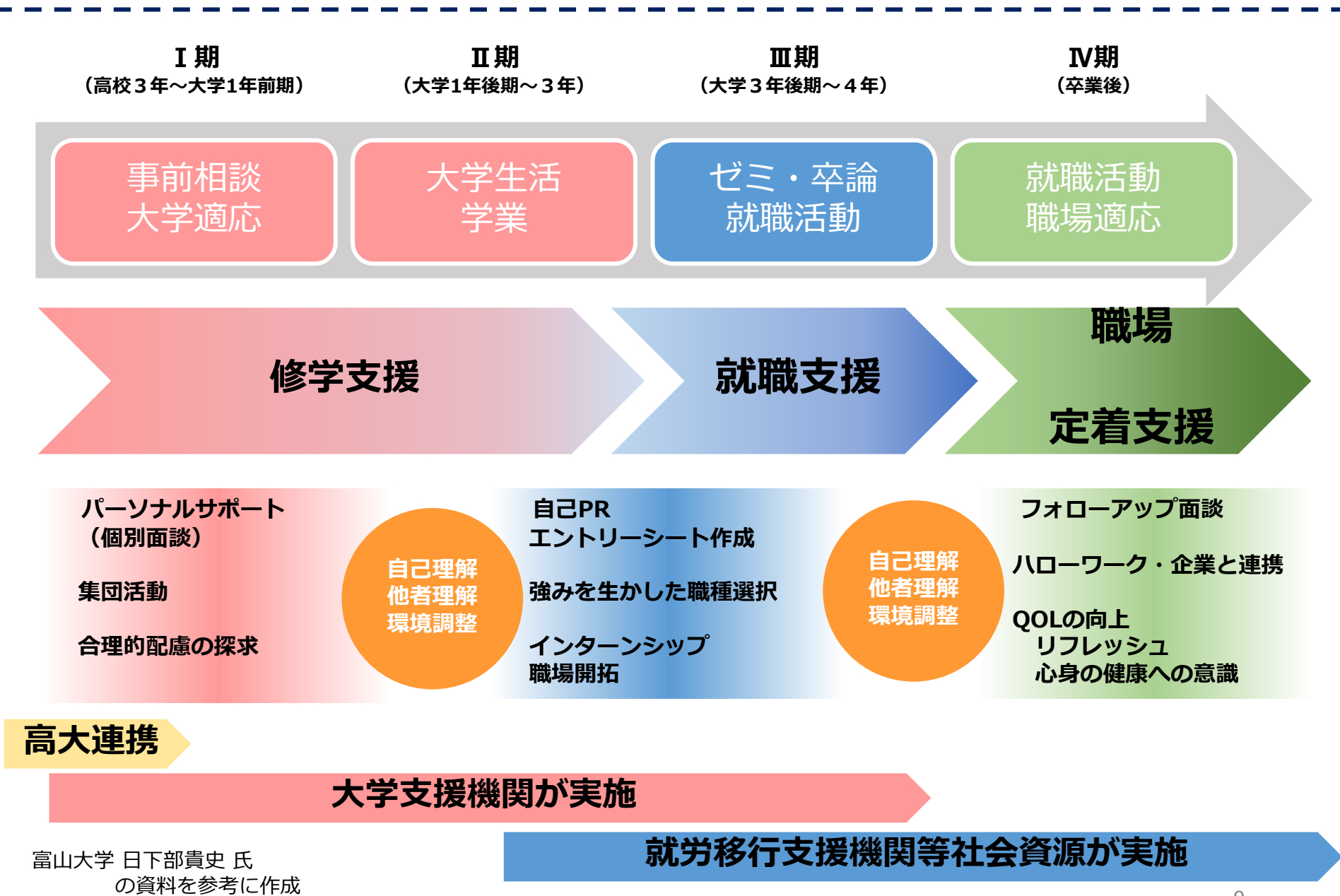
1:障害学生支援 ～学内ネットワーク



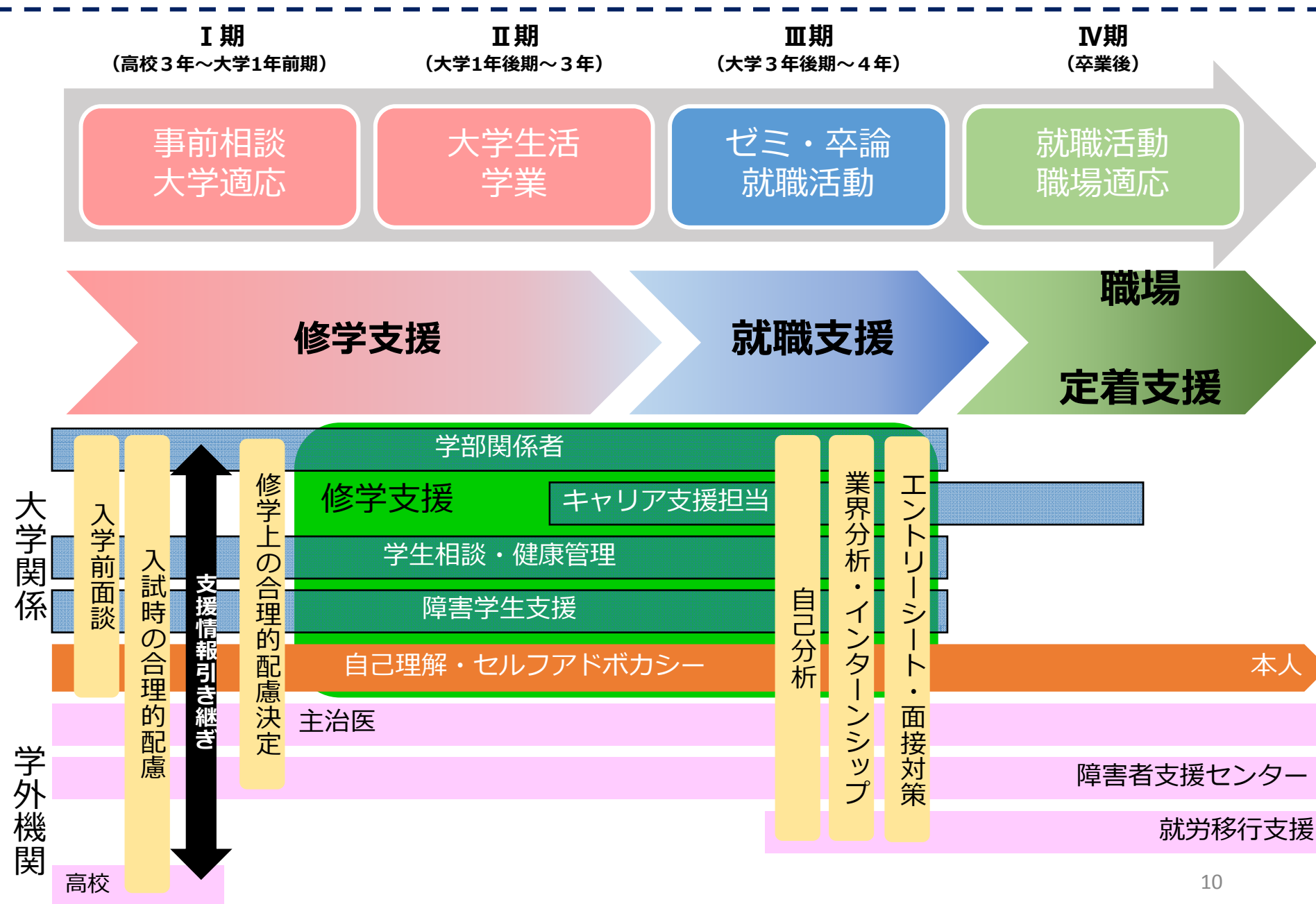
1:障害学生支援 ～学内ネットワーク



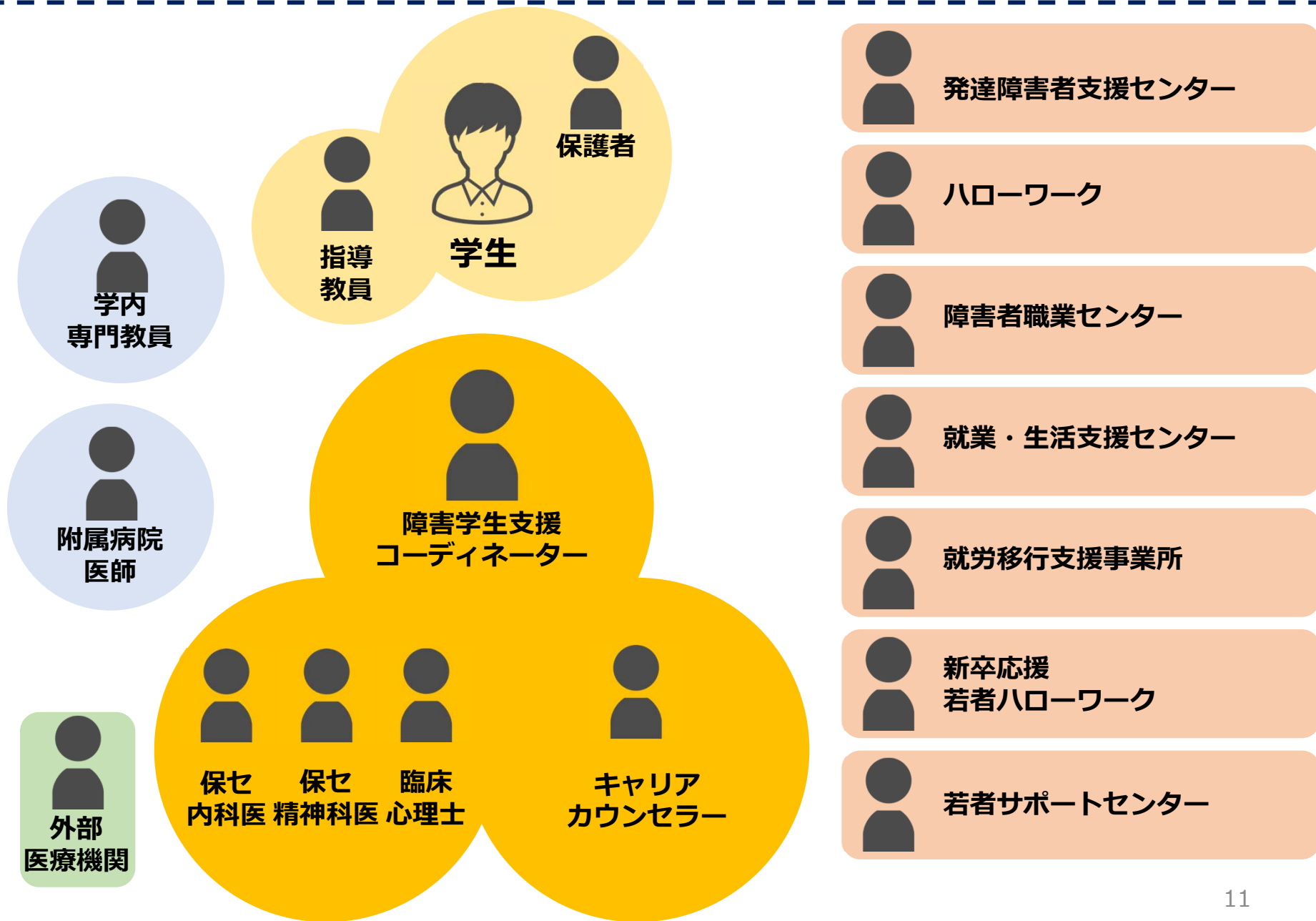
2:障害学生支援 ～学内「外」ネットワーク



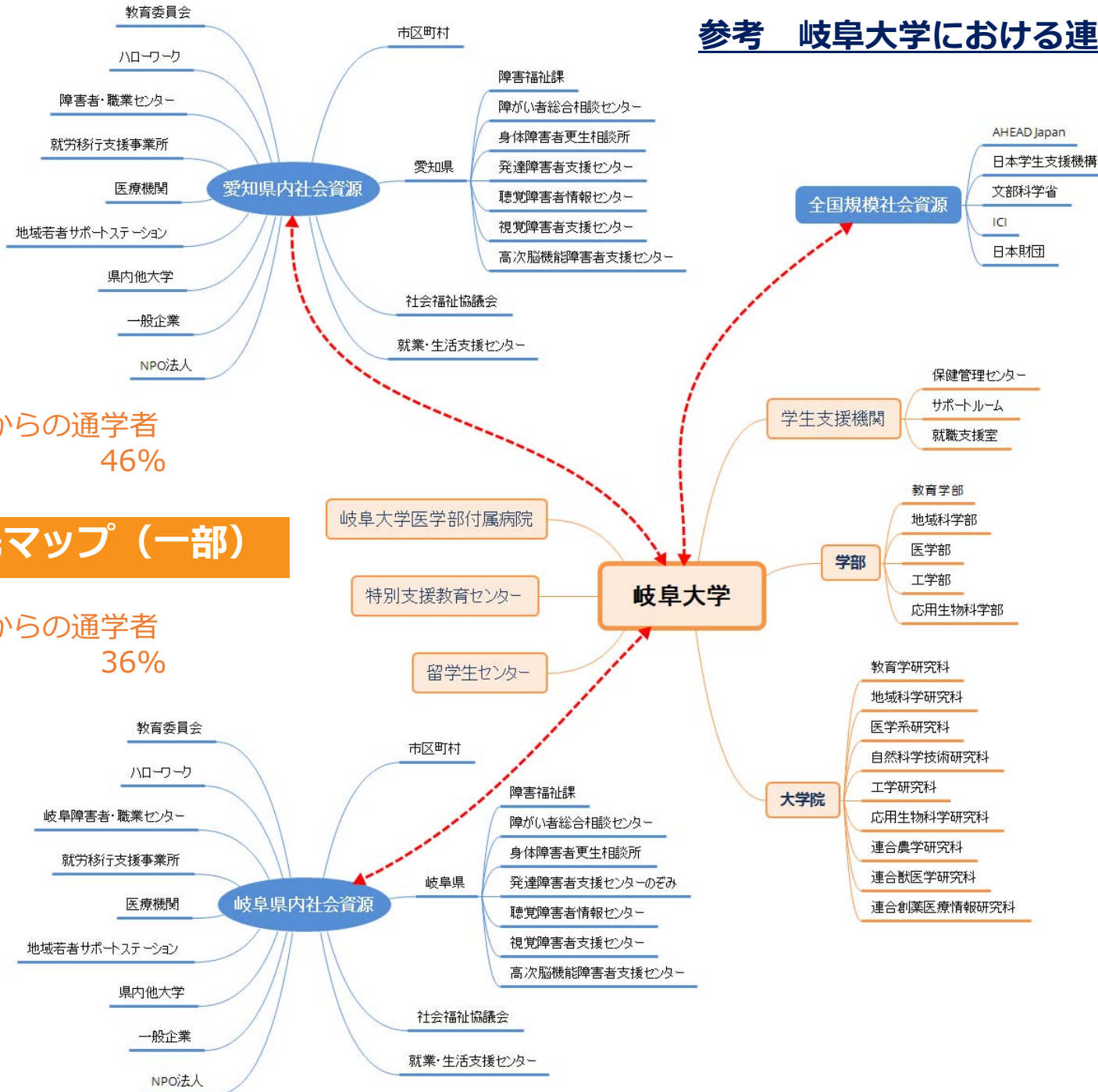
2:障害学生支援 ～学内「外」ネットワーク



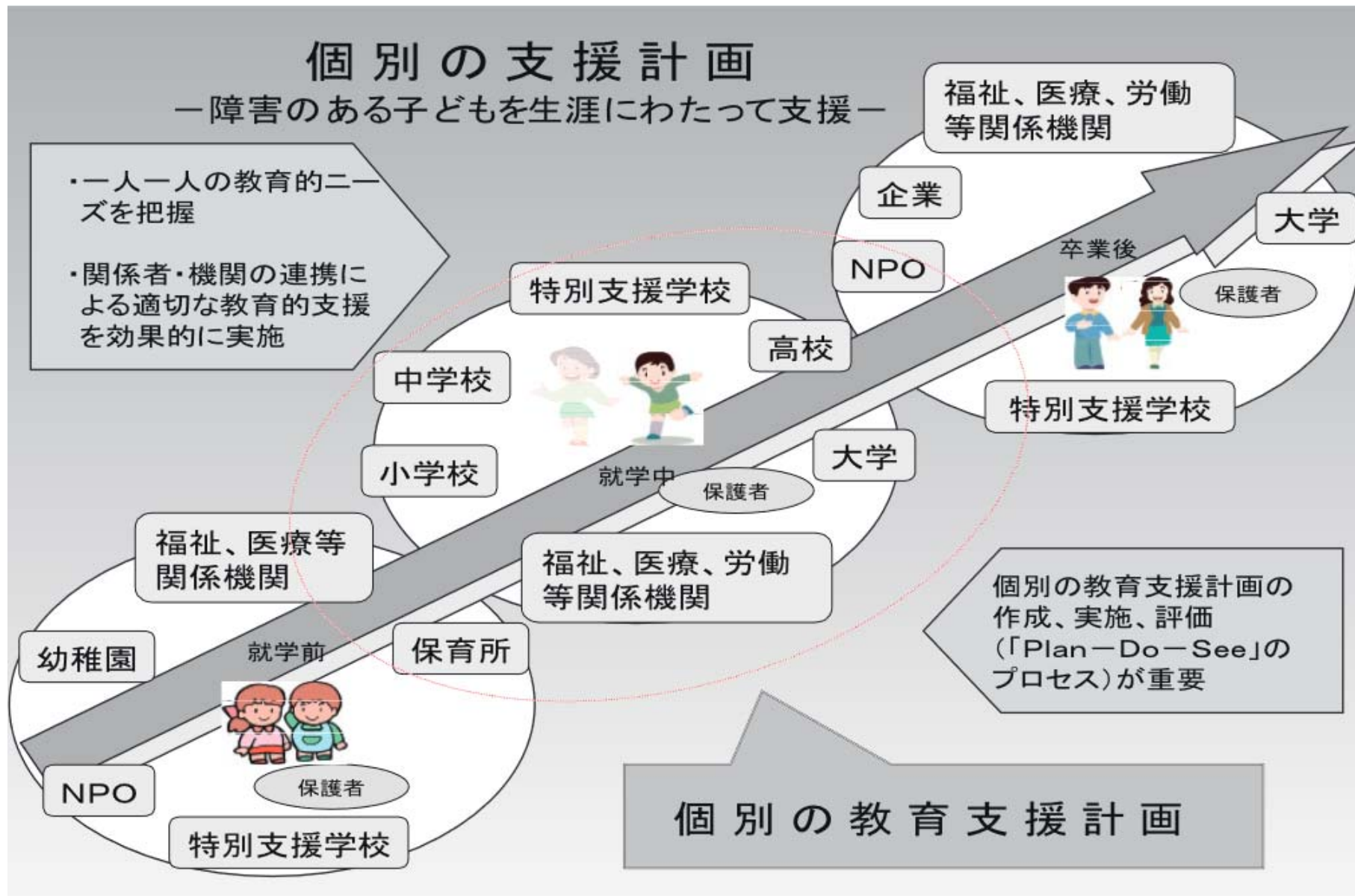
2:障害学生支援 ～学内「外」ネットワーク



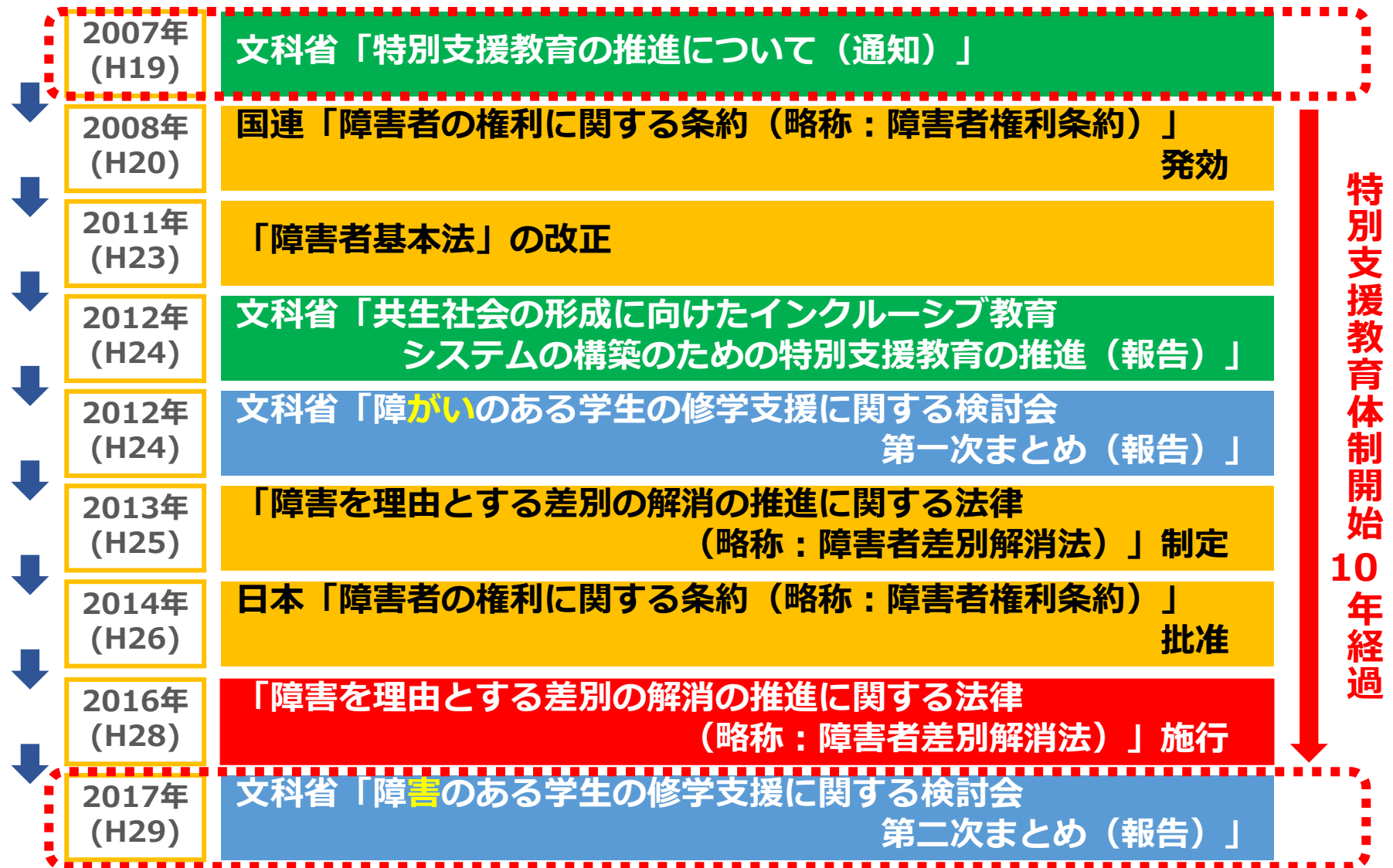
参考 岐阜大学における連携先マップ



3:縦のつながり ～「移行支援」の視点を持つ



3:縦のつながり ～ 「移行支援」の視点を持つ 法制度の移り変わりによる影響



現在の重要課題～共生社会の実現との関係～

- 障害者が積極的に参加・貢献できる社会＝**共生社会の実現**は、様々な人が生き生きと活躍できる社会の実現であり、国民全体にとって有益。
- 各分野において、共生社会実現のための取組が進められている。
- **教育分野の重要課題**は、一人一人に応じた指導や支援（特別支援教育）に加え、**障害のある者と障害のない者が可能な限り共に学ぶ仕組み（インクルーシブ教育システム）**を構築すること。

インクルーシブ教育システムの構築に必要な要件

- ① 障害のある者が一般的な教育制度から排除されないこと
- ② 障害のある者に対する支援のために必要な教育環境が整備されること（基礎的環境整備）
- ③ 障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を行使するため、個々に必要となる適当な変更・調整（合理的配慮）が提供されること 等

※ 「インクルーシブ教育システム」と必要な要件は、平成18年に国連で採択された「障害者の権利に関する条約」において初めて提唱された、新しい概念である。

3:縦のつながり ～ 「移行支援」の視点を持つ

合理的配慮と基礎的環境整備の関係

「基礎的環境整備」

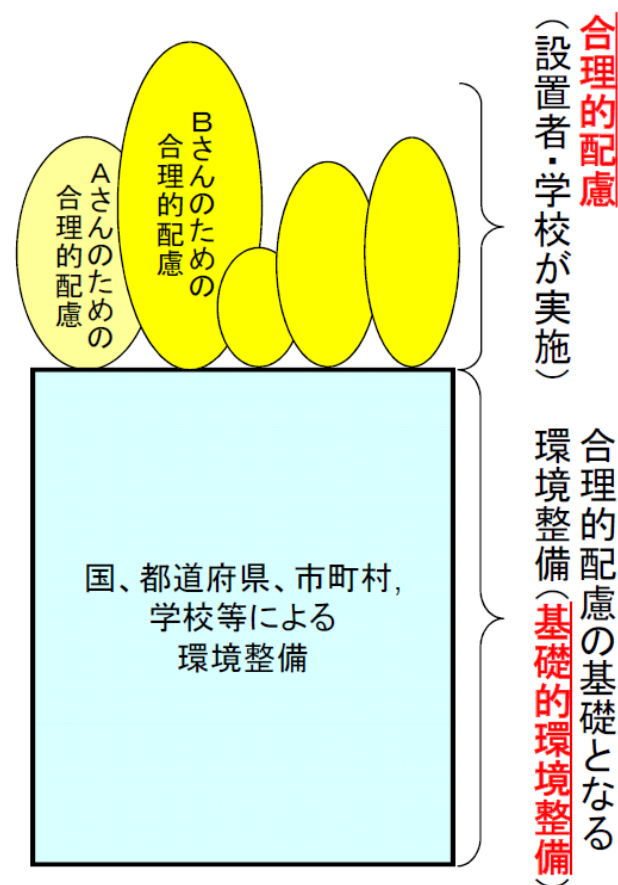
国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、**教育環境の整備**をそれぞれ行う。

- (例) 専門性のある指導体制の確保
教材の確保
施設・設備の整備 等

「合理的配慮」

基礎的環境整備を基に、設置者・学校が、各学校において、**障害のある子供に対し、その状況に応じて提供**する。

- (ポイント)
- ・障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの
 - ・学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの



3:縦のつながり ～ 「移行支援」の視点を持つ

全日制普通科

全日制専門教育学科

農業・工業・商業・水産・看護・理数・芸術・体育・福祉など

(※高等学校専攻科)

全日制総合学科

夜間定時制

昼間定時制

チャレンジスクール

エンカレッジスクール

スーパーサイエンスハイスクール

スーパーグローバルハイスクール

通信制高校

サポート校

技能連携校

高等専修学校

特別支援学校

高等専門学校からの編入生

それぞれどんな特徴・特色があるか知っていますか？

高大連携といっても…



多様な経路から入学する学生
入学前に経験した学びは様々



大学単位での
連携には工夫が必要

3:縦のつながり ～ 「移行支援」の視点を持つ



3:縦のつながり ～「移行支援」の視点を持つ

「寄り添い支援型学生インターンシップ事業」 京都府商工労働観光部総合就職支援室

① 京都ジョブパーク→大学

インターンシップ受入れ企業情報を提供
学生の参加希望と調整

② 京都ジョブパーク→企業

参加希望のある学生情報を受入れ企業情報を伝達
受入れ可否の判断

③ 京都ジョブパークにて

学生・大学（支援者）・受入れ企業・京都ジョブパーク担当
顔合わせ、必要に応じて企業見学

④ インターンシップの実施

⑤ 終了後ジョブパーク主催で関係者全員で振り返り

4:横のつながり ～ 大学主導で地域連携体制を作る試み

県内外から107名が参加

岐阜大学活性化経費(地域連携)事業

発達障害学生支援における 大学と地域の 連携体制構築をめざして

障害学生の修学、就労を支えるために、大学と地域
が連携体制を構築する動きが始まっています。
本シンポジウムでは、特に発達障害学生およびその
傾向のある学生に焦点を当て、それぞれの時期に
どのような支援ができるかを考えます。

2017年9月10日(日)
〔時間〕 13:00-17:40 (開場12:30)
〔会場〕 岐阜大学サテライトキャンパス
岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイイング37
東棟4階 ▶詳しくはウラ面の地図をご覧ください
〔定員〕 100名 **参加費無料**

〔主催〕 岐阜大学 堀田亮(保健管理センター)・船越高樹(サポートルーム)・川上ちひろ(医学教育開発研究センター)



【話題提供・企画運営】

岐阜大学
岐阜聖徳学園大学
ノックス岐阜(就労移行支援事業所)
Notoカレッジ(就労移行支援事業所)
岐阜県発達障害者支援センターのぞみ

4:横のつながり ～ 大学主導で地域連携体制を作る試み

平成30年度岐阜大学技術交流研究会事業

発達障害学生支援における 大学と地域の連携の実際

発達障害学生支援には大学と地域の連携・協働が欠かせません。本シンポジウムでは、障害保健福祉サービスや体制整備支援事業の紹介、そして、修学・就労支援の事例紹介を通して、効果的な支援の在り方について考えます。

2018年10月14日(日)
 【時間】13:00-17:40 (開場12:30)
 【会場】岐阜大学サテライトキャンパス
 岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウイング37 東棟4階
 ▶詳しくはウラ面の地図をご覧ください
 【定員】100名 **参加費無料**

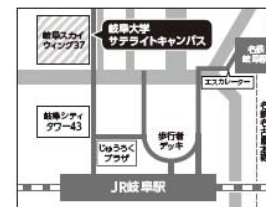
【主催】岐阜大学 堀田亮(保健管理センター)・川上ちひろ(医学教育開発研究センター)・岐阜県発達障害学生就労支援研究会
 【後援】京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム 高等教育アクセシビリティプラットフォーム(Higher Education Accessibility Platform)

県内外から97名が参加

発達障害学生支援における 大学と地域の連携の実際

2018年10月14日(日)
13:00-17:40 (開場12:30)

【会場】岐阜大学サテライトキャンパス
岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウイング37東棟4階
(JR岐阜駅より徒歩5分、名鉄岐阜駅より徒歩8分)



タイムスケジュール

12:30 - 12:55 受付

13:00 - 15:30 シンポジウム

話題提供1 「発達障害学生支援に関する障害保健福祉施策の動向」 加藤永敏(厚生労働省)

話題提供2 「高等教育アクセシビリティプラットフォーム事業の概要」 船越高樹(京都大学)

話題提供3 「発達障害学生の在学中支援事例」 河村あゆみ(岐阜大学)

話題提供4 「発達障害学生の受け入れ事例」 松本知子・田邊裕貴(株式会社グオビジネスサポート)

15:40 - 17:00 グループディスカッション

17:10 - 17:40 全体総括

18:30 - 20:30 情報交換会(岐阜駅近郊で開催・参加費4,000円)

申込方法

【対象】発達障害およびその傾向のある学生の支援者

【申込先】 ikomai@gifu-u.ac.jp 【申込締切】9月24日(月祝) 先着順

【件名】10月14日シンポジウム申込

【本文】氏名(ふりがな)・所属・連絡先(電話番号とメールアドレス)

報告書の送付(1,000円): 希望する・希望しない

情報交換会(4,000円): 参加・不参加

話題提供者に対する質問や、グループディスカッションで話し合いたいテーマがありましたら、ご記入ください。

※諸費用は、当日受付にてお支払いください。領収書も発行いたします。

※報告書の送付を希望される方は、送付先の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。送付は2019年3月を予定しています。

※報告書の送付希望は、当日でも受け付けいたします。情報交換会は事前申込のみとさせていただきます。

※複数名をまとめての申込みも可能です。 ※受付完了メールを返信します。1週間経っても返信がない場合は問合せ先までご連絡ください。

※定員になり次第締め切りますので、お早めにお申込みください。

問合せ先

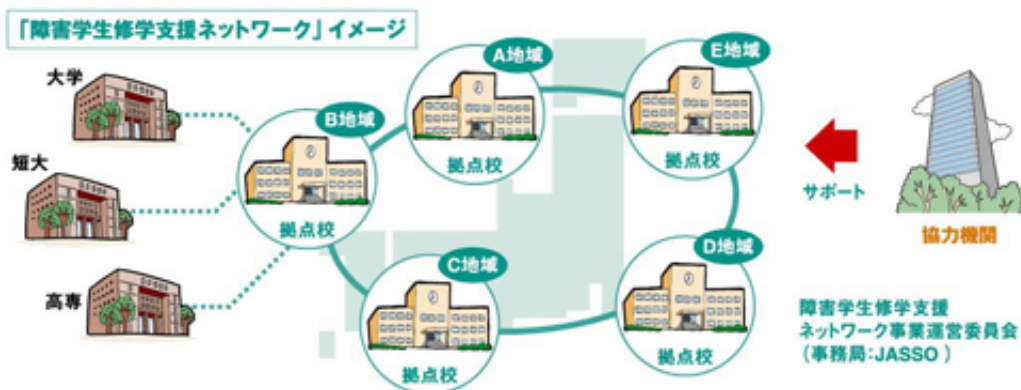
【担当】堀田亮 horita@gifu-u.ac.jp 058-293-2174(岐阜大学保健管理センター代表番号)

5:大学間ネットワークのいろいろ

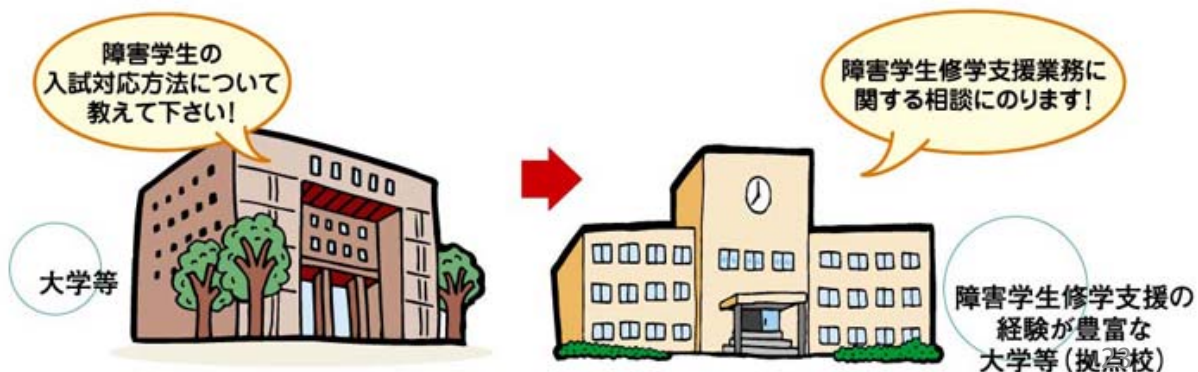
日本学生支援機構 「障害学生修学支援ネットワーク」

【拠点校】

札幌学院大学・宮城教育大学・筑波大学・富山大学・日本福祉大学
同志社大学・関西学院大学・広島大学・福岡教育大学



日本学生支援機構
Webサイトより



5:大学間ネットワークのいろいろ

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）

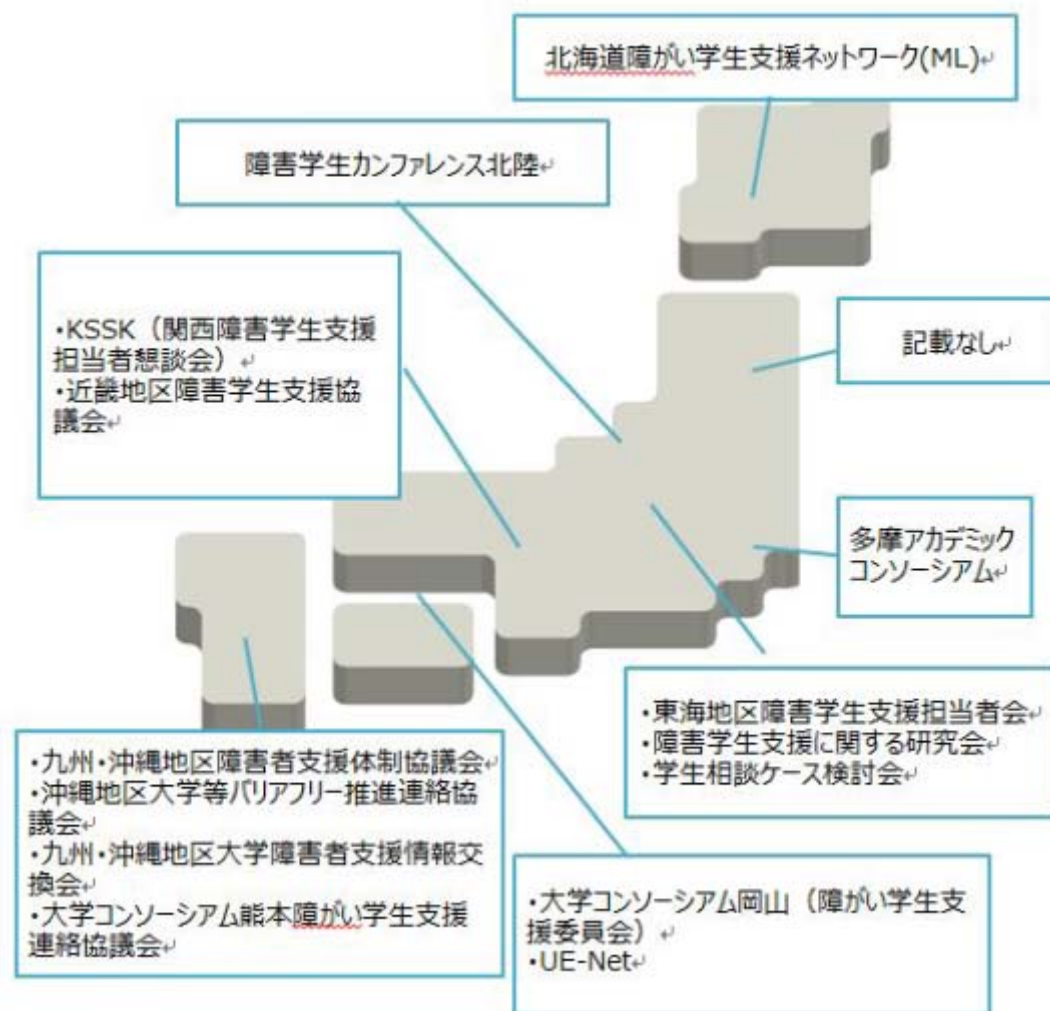
2004年10月設立

全国の高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生の支援のために立ち上げられたネットワーク
筑波技術大学を中心にはじめ全国の連携大学・機関の協力により運営

事業内容

- i 聴覚障害学生支援体制の確立
 1. 共同研究による聴覚障害学生支援技術の開発
 - 1) 共通のテーマに基づく共同研究の実施
 - 2) 研究成果に基づく教材開発
 2. 聴覚障害学生に対する支援実践の蓄積とモデルの構築
 - 1) 聴覚障害学生支援実績の蓄積
 - 2) 支援実績の公開と成果の評価
 3. 聴覚障害学生支援に関する情報の蓄積
- ii 支援・情報ネットワークの形成
 1. 地域の中核となりうる大学・機関間の連携強化
 2. 地域ネットワークの形成
 - 1) 各地域内他大学・関連機関との情報交換および連携体制構築
 - 2) 連携校・機関を窓口とする他大学へのスーパーバイズ
 - 3) 連携校・機関を拠点としたSDの開催
 3. 全国の大学・機関に向けた情報の発信・支援
 - 1) ホームページの立ち上げ
 - 2) ニュースレターを通じた情報交換
 - 3) シンポジウムの開催
 - 4) 聴覚障害学生支援に関わるリソースの配信

5:大学間ネットワークのいろいろ



※H28,29年度にJASSOが行ったヒアリング参加校が加盟しているネットワーク
現在存在するものを網羅している図ではない。

関西障害学生支援担当者懇談会（KSSK）

2006年 日本学生支援機構 障害学生支援事業客員研究員石田久之氏が関西圏6大学による研究会を開始

2008年12月 **関西障害学生支援担当者懇談会（KSSK）**が発足

実務担当者が

- ・理想的な支援や支援の成功例、失敗例
- ・実際の現場での工夫や方法などを
「面と向かって・ざっくばらんに・率直に話し合う」

企画運営（幹事校）

大阪大学、大谷大学・大谷大学短期大学部、関西学院大学
京都大学、京都精華大学、神戸松蔭女子学院大学、
同志社大学、佛教大学、桃山学院大学

5:大学間ネットワークのいろいろ

1	2008年度	12月	大学・短期大学における最近の障害学生支援の動向
2		2月	新年度への準備を通して支援担当者に求められる資質を考える
3	2009年度	8月	発達障害学生支援のいくつかの事例
4		3月	①発達障害者が大学生になって②京都大学における発達障害学生への対応
5	2010年度	8月	障害学生受け入れのための学内体制構築と学内外の連携
6		3月	支援の年間スケジュール
7	2011年度	8月	管理職と実務担当者の役割分担
8		2月	現在の障害学生支援の課題
9	2012年度	9月	障害学生支援における教員と担当職員／桃園大学全学教学推進センター報告
10		3月	支援担当者の質とは？
11	2013年度	8月	障害学生支援における合理的配慮と差別解消法
12		3月	障害学生のキャリア支援
13	2014年度	9月	京都女子大学における障害学生支援について
14		2月	佛教大学における障害学生支援について
15	2015年度	9月	精神障害のある学生の支援について

現在までに21回実施

東海地区障害学生支援フォーラム

(※東海地区障害学生支援担当者会から改称)

H27年2月にPEPNet-Japan(日本聴覚障害学生高等教育ネットワーク)の地域ネットワーク形成支援事業により「東海地区障害学生支援担当教職員研修会」としてスタート

- ①(H26年度冬)愛知教育大学
- ②(H27年度冬)三重大学
- ③(H28年度夏)名古屋大学
- ④(H28年度冬)日本福祉大学
- ⑤(H29年度夏)岐阜大学
- ⑥(H29年度冬)名城大学
- ⑦(H30年度夏)名古屋工業大学

世話人会

日本福祉大学／名城大学／三重大学／京都大学HEAP

6:地域ネットワークの構築の意義と課題

意義① ノウハウの共有

「合理的配慮」は個々のニーズへの対応のため、考慮すべきポイントが多い。支援事例の交換、支援提供の手法などを共有する意味は大きい。

意義② 支援機器等リソースの共有

障害学生支援に活用可能な支援機器の進歩はめまぐるしいが高価なものが多い。卒後に不要になった場合など、機器等の共有化を地域単位でできるとよい。

意義③ 地域社会資源との連携活性化と地域振興・育成の効果

高等教育機関だけでできることは限られている。地域で暮らす学生と卒後を見通した支援を考えると社会資源を活用し、卒業生を支え続けるシステムの育成も視野に。

意義④ 縦のつながりの多様性の確保とコストの低減

高大連携、社会移行支援等の充実化などの社会的要請が大学に寄せられている。限られたコストで多様なつながりを活性する上でネットワーク形成は効率化を促進。

意義⑤ 行政サービスとの連携の促進効果

各行政機関が特定の高等教育機関のためだけにリソースを提供することは難しい。公共性を高め行政との連携を可能にするためにもネットワーク構築は有意義である。

6:地域ネットワークの構築の意義と課題

課題① 目的をはっきりさせる必要

ただ集えばいいというわけではない。それなりの作業コストも発生する。負担だけが増すことの無いように、目的をはっきりとさせる必要がある。

課題② 事務局機能をどこが担うか

輪番制などのやり方があるが、どの機関でも事務局機能を担えるわけではない。既存の組織も活用し、継続可能な運営体制をデザインする必要がある。

課題③ 費用をどのように捻出するか

運営費用もそれなりに発生する。費用は誰がどれくらい負担し、そして管理していくのか、合意形成に難しさがある。

課題④ 他分野との連携

キャリア支援担当、入試部署等、他分野との連携も欠かせない。機能重複を防ぎ、無駄なく相互に連携させるための工夫が必要になる。

課題⑤ 職員の流動性

有期雇用の教員、職員が特に多い分野であるため、事業の継続性確保が難しい。ネットワーク機能で補完し合うことも視野に入れた取り組みが必要である。